

本校の取組を次の視点からチェックしてみましょう！

①全教職員が、「教育活動の充実が図れる」「地域住民の学校理解が深まる」等、学校支援センターの意義や効果について共通理解していますか。

職員会議や校内研修などで期待できる効果などを確認し、学校全体で組織的に取り組みましょう。ボランティアに協力していただくことは、学習活動や体験活動を充実させるために有効だからであり、無償で便利だからではありません。地域の学校を地域の人と一緒によりよいものにするために、学校の応援団として一緒に活動してもらうということを、全教職員で再確認しましょう。

【参考：P2「こんな効果が期待できます。」】

②学校と地域をつなぐコーディネーターやボランティアリーダーが位置付けられていますか。

※ボランティアリーダーの例：読み聞かせ団体の会長、食生活改善推進員の会長など

学校のニーズに合わせて、学校と地域人材（団体等）との連絡調整を行うパイプ役のコーディネーターがいれば理想ですが、吾妻郡内の学校では、コーディネーターがいる学校は多くありません。コーディネーターの配置が難しい場合は、まずは、ボランティアリーダーを中心とした学校支援センターづくりを進めていきましょう。ボランティアリーダーがいると連絡系統がスムーズになります。

③活動が継続できるように年間指導計画に位置付けたり活動記録を残したりして、引継ぎできるようにしていますか。

素晴らしい活動が実施されていても、担当の異動等があった場合に継続されない場合も考えられますので、活動が継続できるような手立てをしていきましょう。

継続する手立てとして、年間指導計画に位置付けておくことも大切です。

参考：P7, 8 年間指導計画への位置付け（例）

また、活動記録を残すことは、活動の振り返りができ、次回依頼する際に役立てることができま

参考：P10 活動記録用紙（例）

す。活動の振り返りとともに、必要に応じて「効率」「安全」「専門性」などの面から見直しを行うことも大切です。授業改善の一方策として専門的な知識を持った地域の人材を活用することも考えられます。

④活動のねらいやボランティアの役割が明確になっていますか。また、それがボランティアに伝わっていますか。

授業の責任者はあくまでも教師であり、授業や活動のねらいを明らかにして設定するのは教師です。ねらい達成のために、ボランティアや外部講師の役割を明確にして、よりよい授業や活動にしていきましょう。そのためには、打ち合わせが必要です。打ち合わせ時間を短縮するために、打ち合わせ用紙などを活用するのも一つの方法です。

参考：P9 打ち合わせ用紙（例）

また、守秘義務などのルールについてボランティアに伝えることも大切です。そのために、ボランティアへ配る資料を作成して説明するのも一つの方法です。

参考：P11 ボランティアへの配布資料（例）

⑤校内においてボランティアを依頼する手順やボランティアを学校全体であたたかく迎え入れる体制が整っていますか。

○校内においてボランティアを依頼する手順

「ボランティアをお願いしたい時に、誰に相談すればよいのか全職員が理解している」などの学校の体制を整えましょう。

○ボランティアを学校全体であたたかく迎え入れる体制

ボランティアに気持ちよく活動してもらうためには、学校が迎え入れる体制を整えておくことが大切です。例えば、ボランティアが来校する日には、「誰が」「どの学年に」「どのような活動を」支援するために来校するのかなど、全職員が把握できるようにしましょう。

また、ボランティアの声を聞く体制も大切です。活動の振り返りとして活動内容の成果や改善点などについてボランティアと話し合みましょう。話し合いに授業者が参加できない場合には管理職や地域連携担当教員等がボランティアの声を聞き授業者に伝えましょう。また、定期的にボランティアの意見を聞く機会を設けましょう。ボランティアとのコミュニケーションの場が増え地域の人たちとのつながりが深まれば、子どもたちへの支援がより充実したものになります。

⑥ボランティアを探す時など、必要に応じて関係団体や公民館・教育委員会事務局などに相談していますか。

校区内にある公民館などの施設や、地域で活動している各種団体との連携は、今後ますます重要になると考えられます。いつでも気軽に相談できるような、良好な関係づくりを進めておきましょう。吾妻郡内においては、学校からの要望があれば地域人材に関する情報提供に協力できるといった公民館や教育委員会が多くあります。

また、地域の行事や活動に参加することは、児童生徒の社会性を育むことにつながります。児童生徒が地域の行事や活動に関わることで、学校と地域の交流が促進され、子どもたちを健やかに育むための環境（地域）づくりや地域の教育力の向上・活性化につながります。

⑦ボランティアの活動などについて、学校だよりや学校WEBページ等で保護者や地域に発信していますか。

より多くの方に学校の応援団として関わってもらうには広報活動も重要です。ボランティアの活動内容とともに子どもの具体的な姿やボランティアの感想等も伝わるように工夫して学校だより・学校WEBページを作成しましょう。また、各種団体行事への参加などを通じて地域へPRしていきましょう。ボランティアの活動の成果を伝えることは、ボランティアのやりがいをより確かなものにします。

参考：中之条町「学校お助け隊だより」 →

中之条町教育委員会

「学校お助け隊」本部が発行し、
地域へ配布しています。

